

吉野川（三好）流域
林業活性化センター
のあゆみ

吉野川（三好）流域林業活性化センター
会長 西 徹

吉野川（三好）流域林業活性化センター

平成16年3月

はじめに

平成3年度に、川上から川下までの流域が一体的に連携し、国産材産地を形成するという「森林の流域管理システム」の確立が国の重要施策に位置づけられました。

三好地域においては、その推進母体として、三好郡8か町村の町村長等行政機関、森林組合長等林業関係団体等からなる「三好流域林業活性化センター」を設置し、付属機関である三好流域林業活性化協議会等において、町村の区域を越えた三好郡内の広範な林業関係者の合意形成を図りながら、林業構造改善事業等を実施することなどにより、森林の流域管理システムの確立に努めてまいりました。

これまで、三好流域林業活性化センターが中心になって取り組んできた地域林業活性化対策の成果としては、

- ① 三好支部センターの活動拠点である「三好林業総合センター」の設置
- ② 三好木材センターを核としたみよし木材団地（三好木材加工流通団地）の造成
- ③ （協）三好林業機械化センターの設立
- ④ 阪神淡路大震災を契機とした大学生協との交流に始まる NPO 法人 JUON（樹恩）NETWORK との交流活動（大学の森、樹恩割り箸など）

などをあげることができます。

しかしながら、社会経済情勢の急激な変化に伴い、林業を取り巻く環境も大きく変化している中で、三好流域林業活性化センターの構成員である町村、森林組合、木材市場、木材加工業者をはじめ、森林所有者に活気をもたらし、三好地域の豊富な森林資源を十分活かす効率的な流域管理システムを確立するには、まだ多くの課題を残しています。

この冊子は、三好地域における林業活性化の取り組みを三好流域林業活性化センターの活動を中心に取りまとめたもので、森林整備の推進や林業木材産業のさらなる発展のための一助となることを願うとともに、当活性化センターの構成員をはじめ行政、林業・木材産業などの関係者の皆様に、活用して頂ければ幸いです。

平成16年3月

吉野川（三好）流域林業活性化センター

会 長 西 徹

目 次

1	森林の流域管理システム	1
2	吉野川（三好）流域林業活性化センターの設立	2
3	吉野川（三好）流域林業活性化センターの組織	2
4	三好流域林業活性化の8つの基本方針	4
5	林業活性化への取り組みの成果	5
	（1）三好林業総合センターの設置	5
	ア 三好林業総合センターの建設	5
	イ 大学生協との交流	7
	（ア）阪神淡路大震災の罹災大学生のために「組み立てミニハウス」を提供	7
	（イ）「JUON（樹恩）NETWORK」の創立	8
	（2）林業従事者の育成確保	9
	ア 林業への新規就業	9
	イ 第3セクター「（株）山城もくもく」の設立	9
	ウ 三好郡林業従事者のつどい	11
	（3）森林組合等林業事業体の再編、体質強化	12
	ア 森林組合と素材生産業者	12
	イ 三好東部森林組合の誕生	12
	ウ 三好郡広域合併森林組合の誕生を目指して	14
	（4）高性能林業機械の導入等による低コスト林業の確立	15
	ア 高性能林業機械と高密路網による素材生産システムの確立	15
	（ア）H型集材架線とプロセッサ	15
	（イ）2存1伐の列状間伐	15
	イ 高性能林業機械の導入	16
	ウ 先導的林業生産団地……山城町西宇・白川団地	16
	エ 三好林業機械化センター協同組合の設立	18
	（5）林産物の流通加工体制の整備	19
	ア 三好木材流通加工団地の造成	19
	イ （協）みよし木材団地	19
	ウ 三好木材センター事業協同組合	20
	エ 三好郡優良木材展示即売会	21
	オ 山城町森林組合ログハウス工場	22
	カ 三好流域林産物需要開発会議	23
	キ 「樹恩割り箸」が三好から全国各地へ	24
	ク 山城町集成材（3層パネルーJパネル）工場の稼働	26

（6）適切な森林整備	28
ア 新しい市町村森林整備計画がスタート	28
イ 森林整備の実績	29
（7）特用林産物の産地化	31
ア 特用林産物の生産実績	31
（ア）シイタケ	31
（イ）炭	31
（8）森林の総合利用	32
ア 「大学の森」による都市住民との交流	32
イ 森林の総合利用施設の充実	35
ウ やすらぎの森育樹活動	36
6 参考資料	37
（1）吉野川流域林業活性化計画書（平成13年3月）の抜粋	38
（2）吉野川（三好）流域林業活性化センターの規約と構成員	39
（3）吉野川（三好）流域林業活性化協議会及び部会の規約と委員	44
（4）吉野川（三好）流域林業活性化センターの歴代役員	54
（5）年表	55
（6）三好林業従事者のつどい表彰者	68

1 森林の流域管理システム

平成3年度から、緑と水の源泉である多様な森林の整備と国産材時代を実現するために、森林を管理する上で合理的な地域の広がりである河川の流域を基本単位として、市町村や林業関係者の合意形成の下で、森林の整備と林業生産活動を着実かつ効率的に推進するという「森林の流域管理システム」の構築を目標として、林政が推進されることになりました。

その推進母体として、市町村、森林組合、森林整備法人、林業経営者、素材生産事業者、木材加工事業者及び営林署等からなる「流域林業活性化センター（流域林業活性化協議会）」を組織し、流域における林業活性化のための目標を明らかにするとともに、川上と川下が一体となって、森林・林業、木材産業の活性化を推進することになりました。



2 吉野川（三好）流域林業活性化センターの設立

三好地域においては、平成3年9月6日に、三好郡の8か町村、森林組合、その他林業関係者で組織する「吉野川（三好）流域林業活性化センター」が設立されました。

以降、同センターの付属機関である吉野川（三好）流域林業活性化協議会及び部会等での協議を通じて、吉野川（三好）流域林業基本方針書や8項目の基本的な方針を設定し、関係者の合意形成を図りながら、森林の整備、森林組合の広域合併、林業事業体の育成、木材の流通加工体制の整備を推進しています。

平成7年には、吉野川流域を統括する吉野川流域林業活性化センター（会長：西山城町長）が設立され、三好流域林業活性化センターは三好支部センターとして活動しています。

現在、平成7年度に策定され、平成13年度に改定された「吉野川流域林業活性化基本方針書」に基づき、流域林業の活性化に取り組んでおり、広域的な林業構造改善事業の実施などを通じて三好地域の林業の活性化対策を推進する上で、三好支部センターは、関係町村等広範な関係者の合意形成を図るための中心的な組織に位置づけられています。

3 吉野川（三好）流域林業活性化センターの組織

(1) 設 立 平成3年9月6日

(2) 会 員 : 37名 (平成15年6月現在)

○ 会員団体等別内訳

町村8	森林組合5	森林管理所1	林業公社1
緑資源公団1		原木市場（協組）1	林業機械（協組）1
製材1		林業事業体3	森林所有者5
建設業協会1		建築士会1	家具（協組）1
木材（協組）1		森林土木協会1	林防災1
機械（株）1		学識経験者1	県農林事務所2

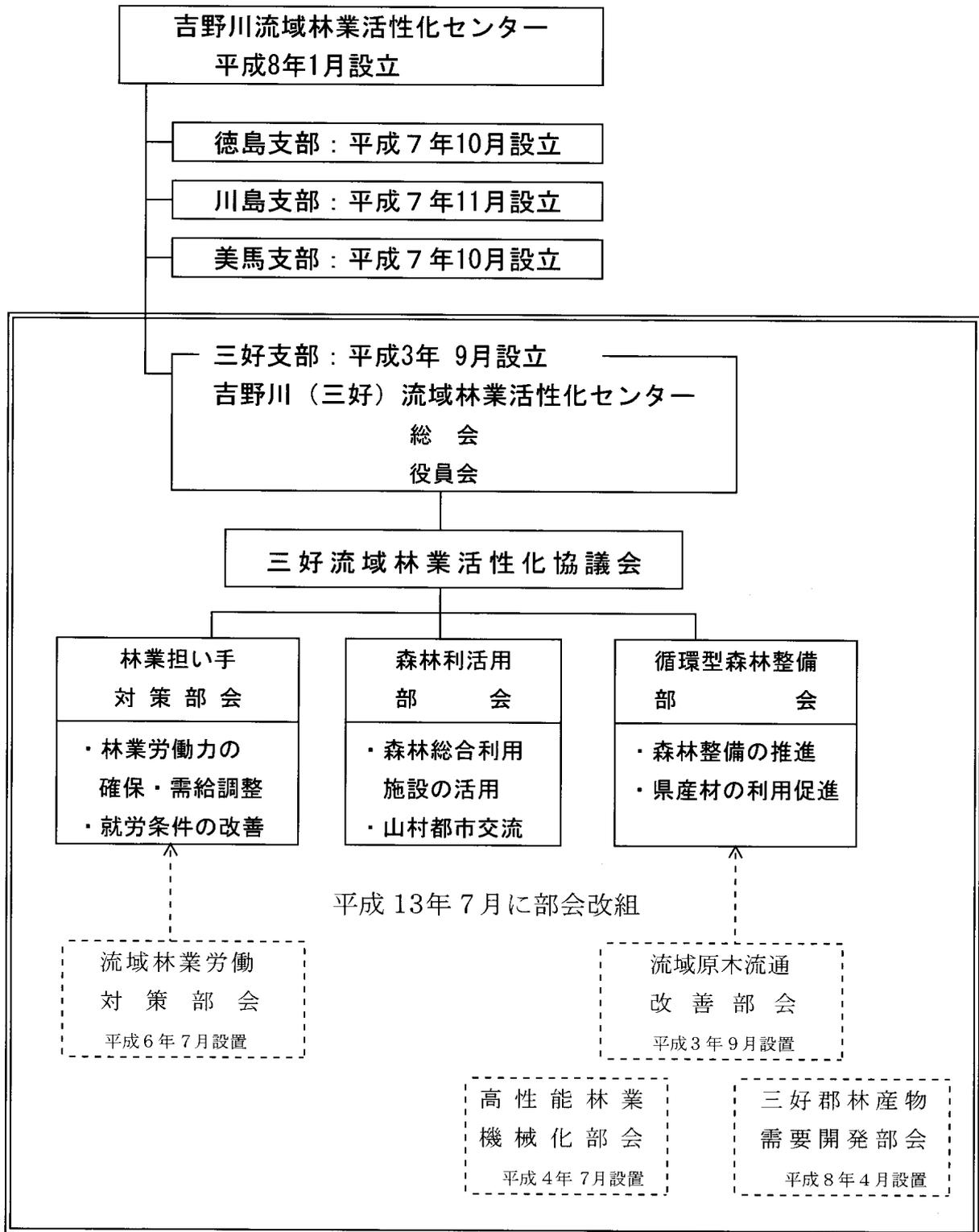
(3) 運営体制

三好支部センターは、三好郡町村会や森林組合等林業関係団体の負担金等で運営されており、事務局員2名（事務局長（町村会事務局長の兼務）1名、女子事務員（林務課配置）1名）が配置されています。

(4) 付属機関

流域林業活性化協議会の下に、「林業担い手部会」「森林利用部会」「循環型森林整備部会」の3部会を設置し、それぞれの課題解決のため、調査・協議を重ね、関係者の合意形成を図りながら、流域林業の活性化に取り組んでいます。

組 織 図



4 三好流域林業活性化の8つの基本方針

平成3年度に策定した吉野川（三好）流域林業活性化基本方針書に沿って、次の8項目の基本的な方針を設定し、協議会及び部会で協議を重ねながら合意形成を図り、森林の整備、森林組合の広域合併、林業事業体の育成、木材の流通加工体制の整備や大学生協など都市との交流を推進しています。

8つの基本的な方針 （三好流域林業活性化協議会資料を一部改編）

（1）三好林業総合センターの設置

- ① 三好流域林業活性化センターの活動拠点
- ② 林産物の展示即売拠点
- ③ 林業の担い手等に対する指導教育拠点
- ④ 森林・林業情報基地
- ⑤ 観光・交流拠点

（2）林業従事者の育成確保

- ① 雇用管理、就労条件の改善（社会保険加入促進など）
- ② 第三セクター等による新規就業者の確保・養成への支援

（3）森林組合等林業事業体の再編、体質強化

- ① 森林組合の広域合併 三好東部森林組合→三好郡森林組合（仮称）
- ② 素材生産業者等林業事業体の組織化の推進

（4）高性能林業機械の導入による生産性の向上

- ① 林業機械化センターの設置
- ② 高性能林業機械を組み込んだ素材生産システムの確立

（5）林産物の流通加工体制の整備

- ① 木材流通加工団地構想の推進
木材市場の拡張
木材加工体制の強化（プレカット工場、ログハウス工場、集成材工場等）
- ② 地域産材によるモデルハウスの開発普及

（6）適正な森林の整備

- ① 間伐を中心とした森林整備の推進
- ② 高能率素材生産システムに対応した林道、作業道の整備
- ③ 森林施業の共同化の推進

（7）特用林産の産地化

- ① 菌床シイタケの産地化の推進（栽培技術の向上等）
- ② その他特用林産物の生産販売

（8）森林の総合利用

- ① 森林総合利用施設の整備と利用促進
- ② 都市住民との交流促進

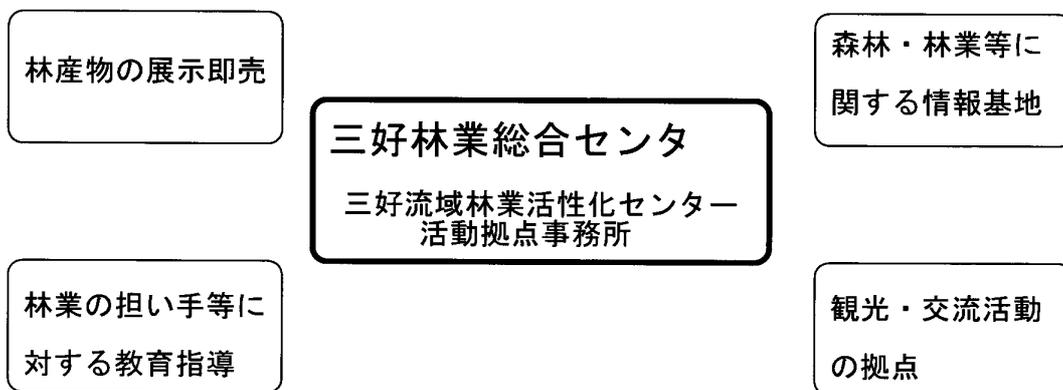
5 林業活性化への取り組みの成果

(1) 三好林業総合センターの設置

三好林業総合センターは、三好郡8か町村を合意の下で、次の5つの機能を持つ三好流域林業活性化センターの活動拠点として整備されました。

- ① 三好流域林業活性化センターの活動拠点機能
三好郡の総意に基づき林業振興を推進する中核施設として
- ② 林産物の展示即売機能
木造住宅のPR、木工品・特用林産物の展示販売施設として
- ③ 林業の担い手等に対する指導教育機能
林業従事者の資質向上研修、青少年の森林林業教育施設として
- ④ 森林・林業情報基地機能
森林資源、木材の生産・流通・加工、交流活動等情報の一元管理施設として
- ⑤ 観光・交流拠点機能
観光資源との連携を通じた森林の保健・文化・教育的利用の拠点として

三好林業総合センターの機能



ア 三好林業総合センターの建設

三好林業総合センターは、平成7年7月に、オープンしました。

現在、1階は特用林産物、地元が開発した家具など木工製品や地元産の集成材製品の展示販売に、2階は研修や会議に活用されています。

なお、センターの管理は、山城町が三好林業総合センター設置及び管理に関する条例（平成7年3月30日山城町条例第9号）に基づき、山城町森林組合に無償で管理を委託しています。

三好林業総合センターの概要

- 所在場所 三好郡山城町西宇 1216 番地
- 敷地面積 2372.39m²
- 建物床面積 993.39m² (1階：535.27m² 2階：458.12m²)
- 構造 丸太による在来軸組工法及び丸太組工法による

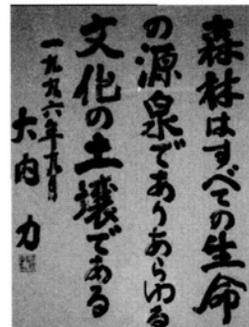
木材使用量		555m ³
(内訳)	杉 丸 太	371m ³
	構造材 桧	5 m ³
	杉	67m ³
	造作材 杉	102m ³
	杉集成材	9 m ³
	桧集成材	1 m ³
- 施工年度 平成 5、6 年度
- 事業名 林業山村活性化林業構造改善事業 (産地形成型)
 事業区分 1階：林産物需要拡大施設整備事業
 2階：林業情報・活動拠点施設整備事業
- 事業費 302,530 千円



三好林業総合センター外観



1階 展示室



2階 会議室
(大内力氏の額)



協議会の様子



林業講演会

イ 大学生協との交流

(ア) 阪神淡路大震災の罹災大学生のために「組み立てミニハウス」を提供

平成7年春に、阪神・淡路大震災で罹災した大学生のために仮設寮建設を計画している全国大学生協同組合連合会（会長：大内力、以下、「全国大学生協連」という。）の呼びかけに対して、山城町森林組合や三好流域林業活性化センター中心となって、阪神・淡路大震災の罹災学生寮「組み立てミニハウス」三好支援実行委員会を組織し、仮設寮 58 棟（居住棟 46、台所などの共用棟 12）を提供しました。

阪神・淡路大震災における仮設学生寮の提供を通じた三好郡の支援活動は、善意の結晶として、学生、大学はもとより社会から高く評価されました。

これを契機に、大学生協への間伐材の家具の供給、大学生の林業体験を組み込んだボランティア交流会の継続など全国の大学生協と三好地域の林業関係者の交流が始まりました。

なお、この組み立てハウスは、平成6年5月から、(株)慧匠社（設計者、本社：大阪市、代表：福家克彦）と山城町森林組合（試作・生産者、組合長：尾田博）が、共同開発していたもので、三好流域活性化センターは、両者及び全国大学生協連等との調整や地域の合意形成に深く関わりました。



スチューデントハウジングコープ芦屋



交流会

(イ) 「JUON (樹恩) NETWORK」の創立

阪神・淡路大震災における仮設学生寮の提供を通じた三好郡の支援活動を契機として、全国の大学生協と三好地域の林業関係者の交流が始まりました。

全国大学生協連では、農山漁村と都市を結ぶ交流事業の推進・運営母体の必要性が議論され、「JUON (樹恩) NETWORK」構想がまとめられました。

吉野川(三好)流域林業活性化センターは、樹恩ネットワーク&大学(協同)の森設立支援実行委員会を設け、早くから「JUON (樹恩) NETWORK」の設立に関わっています。

平成10年4月27日には、「JUON (樹恩) NETWORK」創立総会及び創立記念シンポジウムが池田町総合体育館で開催されました。

翌日には、阪神・淡路大震災での支援を契機として始まった交流のシンボルである「大学の森」のオープニングセレモニーが開催されました。

以来、「四国のへそ 森林の楽校」の開催、「樹恩割り箸」の生産・供給などの取り組みに発展しています。

また、三好郡以外では、新潟県佐渡畑野町(鳥越文庫、猿八山舎)、富山県利賀村(Starforest)、埼玉県神泉村などで「森林の楽校」が開催されるなど、全国規模のネットワークで活発な交流活動を展開しています。

なお、平成11年11月25日からは、特定非営利活動法人(NPO)として生まれ変わり、大きく発展しています。

JUON (樹恩) NETWORK 創立記念シンポジウムの概要

- 日 時 平成10年4月27日
- 場 所 池田町総合体育館
- 内 容
 - ・ 記念講演 JUON NETWORK (樹恩ネットワーク) への思い
全国大学生協連会長 大 内 力

・ パネルディスカッション

テ ー マ : JUON (樹恩) に期待する。

コーディネータ : 小林正美 (全国大学生協連専務理事)

パネ リ ス ト : 筒井迪夫 (東大名教授)、宮田繁幸 (文化庁)、木元理夫
(社会福祉法人松江ちどり会理事)、中瀧清文 (井川町長)、
山元 学 (元阪神淡路大震災ボランティア)



JUON(樹恩)NETWORK 創立総会



パネルディスカッション

(2) 林業従事者の育成確保

ア 林業への新規就業

三好地域の林業事業者が、徳島県森林整備担い手対策基金事業（グリーンエキスパート養成事業）により、I、Uターン者などを新規に雇用して、研修、訓練を行った人数は32人で、平成15年4月末日現在、事業体に定着している人は22人となっており、将来の林業を担う貴重な人材になっています。

三好郡における新規就業者の推移

年 度	7	8	9	10	11	12	13	14	累計
新規就業者数(人)	3	3	2	12	5	1	2	4	32
うち離職者数(人)	1	0	1	7	1	0	0	0	10

池田農林事務所資料による。

イ 第3セクター「山城もくもく」の設立

平成9年12月、山城町は、森林整備、森林資源の活用と林業後継者の育成を図ることを目的に、第3セクター「株式会社山城もくもく」を設立しました。

現在、森林整備部に7名が配属され、間伐等森林整備事業を推進しており、基幹的林業労働者として活躍が期待されている若者の確保養成に貢献しています。

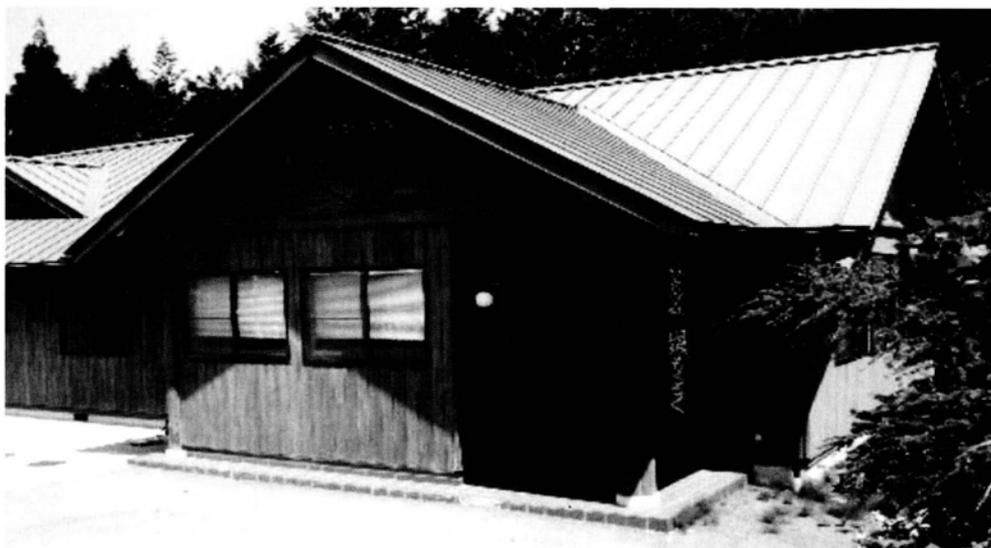
また、平成12年10月から、間伐材の有効利用を図るため、木材加工部が設けられ、集成材工場（Jパネル）の運営を行っています。

「株式会社 山城もくもく」の概要

- 設立年月日：平成9年12月16日
- 代表取締役：西 徹 山城町長
- 資 本 金：306百万円
 - 山 城 町 300百万円
 - (過疎債を充当)
 - 山城町森林組合 2百万円
 - (株)阿波銀行 2百万円
 - JA阿波みよし 2百万円
- 業 務 開 始：森林整備部 平成10年4月1日
- 木材加工部 平成12年10月1日
- 従 業 員 数 18名

山城もくもくの事務所・機械施設の整備

- 所在場所 三好郡山城町下川 1483 番地
- 敷地面積 14,420m²
- 建物床面積 3,590m² { 事務所 A 240m² 倉庫 360m² 工場 2,713m²
事務所 B 132m² 作業所 145m² }
- 構造 事務所 木造平屋建
工場・倉庫 RC 造一部木造平屋建
作業所 鉄骨造平屋建
- 施工年度 平成 10～12 年度
- 事業名 若者定住促進等緊急プロジェクト事業
木材流通合理化特別対策事業
- 事業費 1,189,800 千円



(株) 山城もくもく 事務所



倉庫・機械装備



新規就業者の集合写真

ウ 三好郡林業従事者のつどい

昭和 59 年から、三好郡内の林業従事者等関係者が一同に集い、林業労働安全を祈願し、親睦を深めるとともに、森林の恵みに感謝し、林業・木材産業への思いを新たにすため、三好郡林業従事者のつどいを開催しています。

吉野川（三好）流域林業活性化センターは、設立後共催者として参画しています。

平成 15 年度第 19 回林業従事者のつどいの開催状況

- 主催者 吉野川（三好）流域林業活性化センター
三好木材センター事業協同組合
- 後 援 三好郡町村会、三好郡各森林組合、徳島県池田農林事務所
- 参加者 60 名
- 来 賓 徳島森林管理署長、池田農林事務所長ほか
- 日 程
 - 11：00～12：00 チーム対抗丸太積み競争
 - 13：00～13：30 安全祈願祭
 - 13：30～14：30 式 典
優良林業従事者、優良林業経営者、木を活かす三好の名匠、
森づくりコンクール、丸太積み競争
 - 14：30～16：00 林業講演会
講師：中江産業 山林事業本部長 山中直秋 氏
演題：国産材不況・大手林業会社における対応と課題
—中江産業（株）の経営努力の歩みを中心として—



丸太積み競争



式 典



林業講演会

(3) 森林組合等林業事業体の再編、体質強化

ア 森林組合と素材生産業者

三好地域には、森林組合が5組合、その他の林業事業体が26あり、森林の流域管理システムを推進する上で、大きな役割を果たしています。

三好郡内の林業事業体数

町 村	事業体数	対象事業別		従業員数
		造林保育	素材生産	
三 野 町	1	1	-	3
三 好 町	2	1	2	3
池 田 町	8	4	7	26
山 城 町	5	3	5	28
井 川 町	3	2	2	10
三加茂町	5	4	3	19
東祖谷山村	1	1	1	3
西祖谷山村	1	1	1	4
計	26	17	21	96

平成12年度 池田農林事務所調べ

平成7年10月に三好林業機械化センター、平成9年10月に三好東部森林組合が設立されるなど林業事業体の再編が進みました。

また、平成14年8月に、森林組合長、町村長等からなる三好地区森林組合広域合併推進協議会を設置し、三好郡一円を区域とする広域合併を進めています。

この合併が実現すると事業収益が11億円を超え、地域林業の活性化を担う中核森林組合になります。

イ 三好東部森林組合の誕生

平成9年10月に、三野町、三好町、井川町及び三加茂町の4つの森林組合が合併して、三好東部森林組合が誕生しました。

平成10年度には、経営基盤強化林業構造改善事業（木材供給圏確立型）及び三野町、三好町、三加茂町、井川町の三好東部4町村の単独事業により、情報センターを併設した森林組合事務所をみよし木材団地に構えました。平成11年5月19日に落成式を開催しています。



合併調印式

ウ 三好郡広域合併森林組合の誕生を目指して

平成 12 年度に、森林組合広域合併研究会が発足し、三好郡一円を区域とする広域合併の研究が始まり、平成 14 年 8 月には、三好地区森林組合広域合併推進協議会が設立され、現在、平成 17 年 10 月の合併を目指して協議を行っています。

三好郡一円の合併が実現すると、経営規模、事業収益等が木頭森林組合に匹敵する広域森林組合になり、三好流域林業の中核として期待されています。



三好郡広域合併推進協議会の様子

森 林 組 合 の 主 要 指 標 (平成 15 年 3 月 31 日現在)

項 目	三 好 東 部	池 田 町	山 城 町	東 祖 谷	西 祖 谷 山 村	5 組 合 合 計	木 頭
経 営 面 積 (ha)	15,971	13,754	11,044	12,853	9,176	62,798	51,159
組 合 員 数 (人)	3,603	2,584	1,438	606	633	*8,864	2,955
組 合 員 面 積 資 格	10a	10a	10a	50a	50a		制限無
役 員 数 (人)	25	19	15	13	11	83	24
職 員 数 (人)	9	3	9	6	2	29	32
作 業 班 員 数 (人)	33	24	33	11	7	108	79
出 資 金 (千円)	30,100	17,466	26,849	5,998	8,217	88,630	83,403
1 口 の 額 (円)	100	300	1000	1500	500		500
総 資 産 (百万円)	204	101	370	121	54	850	867
事 業 収 益 (百万円)	227	193	457	184	39	1,099	1,148

「5 組合合計欄」のうち、組合員数は 5 組合の合計であり実数ではない。
また、空欄は協議中で、未決定事項である。

(4) 高性能林業機械の導入による低コスト林業への取り組み

ア 高性能林業機械と高密路網による素材生産システムの確立

搬出間伐の採算性や将来の主伐の収益性を高めるため、高性能林業機械の導入を図るとともに、森林施業の団地化と林道・作業道（簡易な作業路を含む）の開設を推進しています。

特に、山城町に設定した先導的林業生産団地 西宇白川団地では、高密路網と高性能林業機械の組み合わせによる木材搬出システムの確立に取り組んでいます。



高性能林業機械講習



作業道開設等研修

(ア) H型集材架線とプロセッサ

間伐材を利用するには、搬出コストの削減を図る必要があります。天井クレーンのように、荷掛けフックを任意の場所で垂直に上下できるH型集材架線は、集材作業を大規模に行うことで、経費単価を抑えることができます。

さらに、本格的な全木集材作業ができるので、プロセッサの高速処理能力が存分に発揮できることになり、総合的な作業能率の向上が低コスト化を実現してくれることとなります。

(イ) 2存1伐の列状間伐

列状間伐は、高性能林業機械の効率的な活用に適しており、出材経費を大幅に下げることができます。中でも2存1伐の列状間伐は、間伐率を33%とすることができ、伐区の設定や伐倒が容易で、スイングヤードを用いて効率的な搬出が可能となります。

イ 高性能林業機械の導入

三好地域では、林業構造改善事業、林業就労改善整備事業、流域総合間伐対策事業、地域共同間伐推進事業、先導的林業生産団地施設整備事業、林業改善資金、林材業振興資金、自己資金で、プロセッサ8台、ハーベスタ1台、フォワーダ3台、タワーヤーダ2台、スイングヤーダ1台、合計15台の高性能林業機械が導入されています。

高性能林業機械の導入状況(平成15年3月3日現在)

年 度	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	計	備 考
プロセッサ	3	1				3			1		8	
ハーベスタ				1							1	
フォワーダ					1	1	1				3	
タワーヤーダ					1	1					2	
スイングヤーダ						1					1	
計	3	1		1	2	6	1		1		15	

池田農林事務所調べ

ウ 先導的林業生産団地・・・山城町西宇・白川団地

平成7年度に、山城町西宇・白川地区が「先導的林業生産団地整備促進事業」の地域指定を受け、林道・作業道の集中的な整備等により、林業活性化の先導的役割を担う「先導的林業生産団地」の整備を推進しました。

平成11年度までに、林道2路線1,232m、作業道5路線7,433の開設、境界確認測量400ha、作業小屋7棟の整備、フォワーダ、ウィンチ付きグラップル等の機械施設の整備を行うとともに、間伐232.20ha、造林12.35haの施策が実行されました。

さらに、平成12年度には、この団地の一部を含む地域が緊急間伐団地に設定され、平成13～14年度においては、作業路開設7,179m、間伐実施27.53ha、間伐材搬出1,890m³の施策が実行されています。

なお、平成14年度における作業路開設から間伐材搬出までの生産性は、3.00m³/人・日に達しており、高密度路網とウィンチ付きグラップル・フォワーダの組み合わせによる間伐材搬出システムの有効性が実証されました。

平成15年度徳島県森づくりコンクール（森林整備推進の部）において、この西宇・白川団地の森林整備を推進してきた山城町森林組合が、徳島県知事賞を受賞しました。

先導的林業生産団地「西宇白川団地」における施設整備の概要

- 1 団地の規模 1,145ha
- 2 期 間 平成7～11年度
- 3 作業拠点等の整備

区 分	計画数量	実 績	摘 要
(1) 施業林道の開設	2 路線 1,250m 水無線 850m 峯道床線 400m	1,232m 772m 460m	県単林道 林構
(2) 作業道の開設	5 路線 16,500m 峯 線 4,200m 白 川 線 3,300m イノ谷線 2,700m 津 屋 線 3,600m 峯堂床線 2,700m	7,433m 2,780m 1,737m 755m 1,461m 700m	流域森総ほか
(3) 施業の実施	間 伐 300ha 再・拡造林 34ha	232.20ha 12.35ha	
(4) 境界確定・測量	400ha	400ha	
(5) 施設整備	作業小屋、枝打ち機 等	作業小屋 7 等	県単林振



白川団地の路網



間伐材搬出作業

エ 三好林業機械化センター協同組合の設立

素材生産の効率化（生産コストの低減）、従事者の労働強度の軽減、充実する森林資源に対応する人材の育成を担うため、素材生産業者、森林組合、林業経営者など 19 名の組合員からなる協同組合が平成 7 年 10 月に設立されました。

平成 10 年にプロセッサ、タワーヤーダ、クレーン付トラック等が整備されてリース方式による事業を開始しています。

（協）三好林業機械化センターの概要

- 設立年 平成 7 年 10 月
- 組合員数 19 名（設立時）
- 機械装備
 - プロセッサ 1 台
 - グラップル付きタワーヤーダ 1 台
 - 簡易クレーン付きトラック 2 台
 - フォワーダ 1 台

(5) 林産物の流通加工体制の整備

ア 三好木材流通加工団地の造成

平成4年の活性化協議会において、原木市場・製材工場・木材加工業などを集積する「三好木材流通加工団地設置構想」が提案されて、流域の合意を得て、団地進出予定企業12社で協同組合を設立しました。

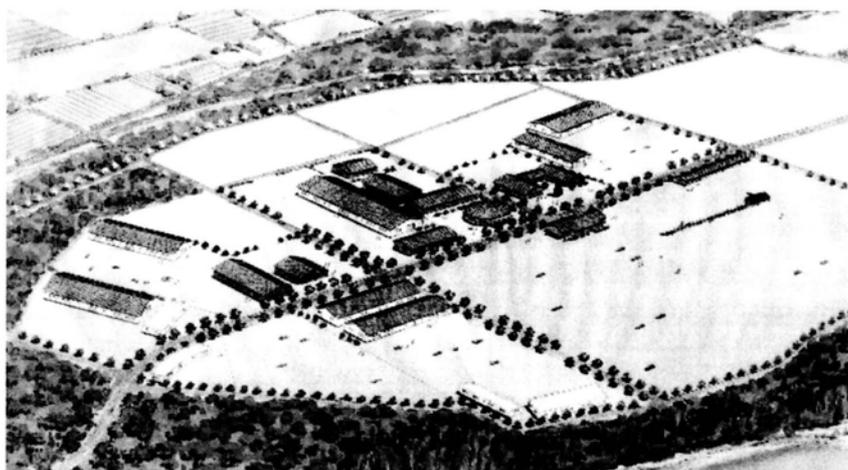
地元三野町が平成7年から団地(9ha)の造成に着手し、平成8年度に整備が完了し、各進出企業は平成9年度に用地を取得しました。

現在、原木市場、森林組合、製材工場の4社(5.1ha)が進出しているものの、その他の企業は、国内景気の状態から新規投資を控えています。

イ (協)みよし木材団地

三好木材流通加工団地構想の実現に向けて、平成7年10月23日に進出予定企業10社で(協)みよし木材団地を設立しました。

進出企業	業種	用地面積	備考
(協)みよし木材団地	団地管理運営	84,780	
三好木材センター(協)	原木市場、素材生産	42,334	
(有)伊原製材所	製材	9,400	
(株)阿波林材	製材、素材生産	3,441	
山田機械(株)	製材機械等販売修理	4,378	
(有)末広産業	素材生産	3,478	
三好林産(協)	製材、建築、素材生産	6,631	
(協)四国ウッディシステム	木工、家具	1,000	
(株)藤川木工	木工、家具	1,470	
(有)大月工務店	建築、プレカット	5,200	
三好林業機械化センター(協)	素材生産	1,199	
三野町森林組合	素材生産	2,200	
山城町森林組合	素材生産	4,049	



みよし木材団地

ウ 三好木材センター事業協同組合

三好木材流通加工団地の核となる事業協同組合である。平成8、9年度に、林業山村活性化林業構造改善事業（木材供給圏確立型）により、原木市場を整備した。

施設の完成は、平成10年11月9日で、第17回三好郡優良木材展示即売会に併せて新施設落成記念式典が盛大に開催されました。

- 事業費： 354,458千円
- 敷地面積： 42,334m²
- 施設概要 木材供給圏確立型林業構造改善事業による施設整備

施設	数量	事業費
貯木場改良舗装	38,824.4m ²	204,176千円
管理棟	1棟 258	49,434
機械保管庫	1棟 91	6,741
休憩施設	1棟 68	17,751
選別機	1基	65,446
ログレーダー	1台	11,000
計		42,334

- 原木取扱量の推移

年度	3	4	5	6	7	8	9	10
取扱材積	36,820	41,100	40,840	43,970	39,950	39,990	39,120	30,250

年度	11	12	13	14
取扱材積	29,840	33,550	26,740	25,480

単位：m³



三好木材センター落成式



みよし木材団地

エ 三好郡優良木材展示即売会

三好郡の林業及び木材関連産業の振興対策の一環として、郡内の優良木材を一同に集荷し、一般に展示し、木材の良さを PR するとともに、優良材の生産技術の向上に資し併せて販路の開拓を行うことを目的に、三好木材センターと吉野川（三好）流域林業活性化センターの主催で、三好郡優良木材展示即売会を開催しています。

平成 15 年度 第 22 回三好郡優良木材展示即売会の概要

- 主催団体 三好木材センター事業協同組合
吉野川（三好）流域林業活性化センター
- 後援団体 池田農林事務所、三好郡町村会、三好郡森林組合長会
三好林業機械化センター協同組合
- 開催日時 平成 15 年 10 月 17～21 日
審 査：10 月 17 日
展 示：10 月 17～21 日
表彰式：10 月 21 日
- 開催場所 展示即売 三好木材センター土場
表 彰 式 三好木材センター特設会場
- 展示即売品 集荷量 スギ、ヒノキ、マツ、広葉樹 2000m³
- 表 彰 知事賞、池田農林事務所長賞、吉野川（三好）流域林業活性化センター会長賞、
木材展示会会長賞
- 展示会役員 三好木材センター事業協同組合理事長ほか
- 審査委員 池田農林事務所林務課長ほか



展 示



表 彰 式

オ 山城町森林組合ログハウス工場の稼働

スギ材を生かした丸太組み立てのログハウス工場が、平成6年12月に完成し、原木の伐採・搬出、製材、加工、建築基礎工事、建築までの全工程を山城町森林組合が運営しています。

○ 所在地：山城町光兼

○ 施設・数量等：敷地面積 3,760m²

管理棟 1棟 (54m²) 作業棟 2棟 (1,041m²)

休憩室 1棟 (78m²) 製品倉庫 1棟 (160m²)

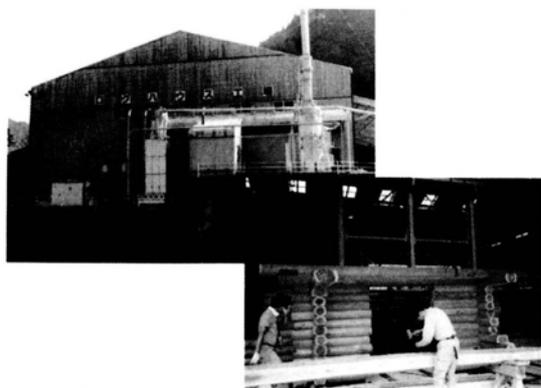
機械器具一式

○ 事業名：林業山村活性化林業構造改善事業・林業就労改善促進事業

○ 総事業費：

○ ログハウス販売実績

年度	7	8	9	10	11	12	13	14
取扱量 (棟)	13	5	8	3	9	7	10	5



ログハウス工場(山城町)



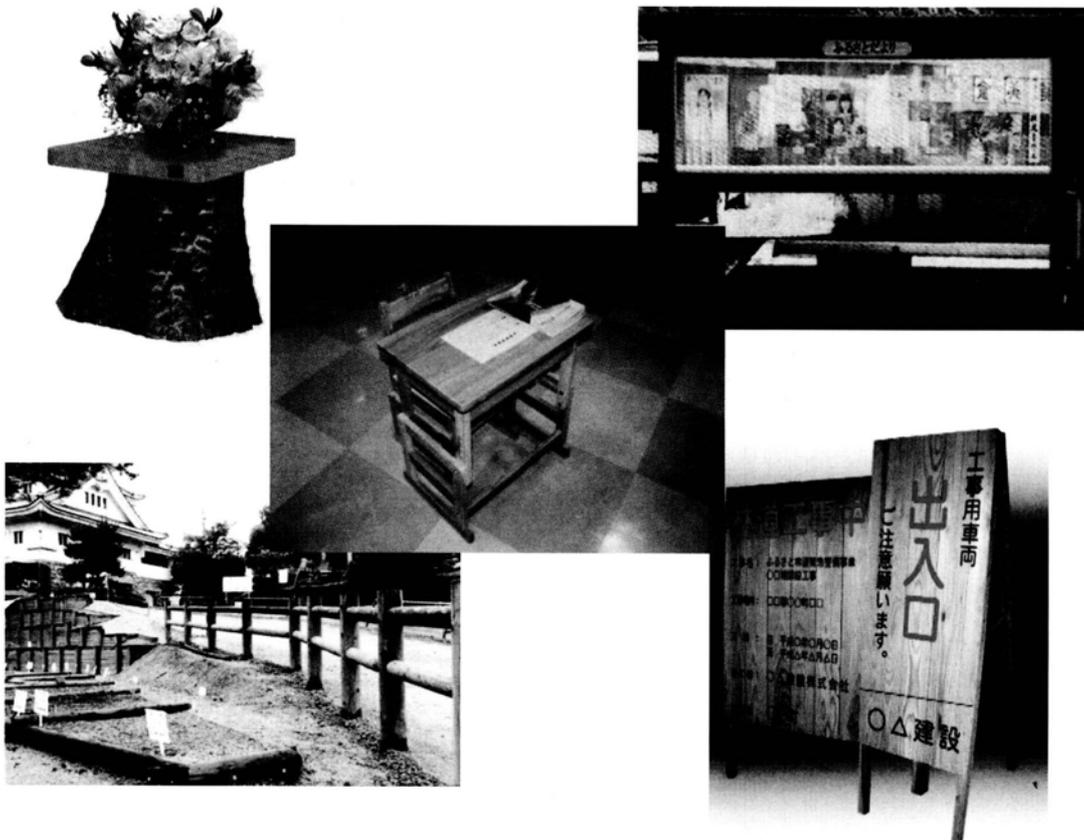
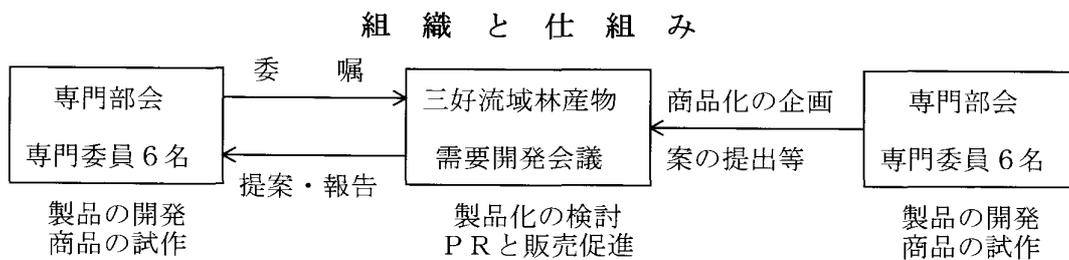
ログハウスの例

カ 三好流域林産物需要開発会議

間伐材の需要拡大を具体化する中、大学生協連へのクローゼットなどの家具を供給することになり、商品開発から製造販売までの連携体制を確立し、安定的供給を図るため、大学生協、木工業者、森林組合等関係者で組織された「三好流域林産物需要開発会議」を、平成8年4月、活性化センターに設置し、三好材の需要拡大に努めてきました。

以来、木工製品の開発、山城町森林組合と木工業者との連携等による加工販売システムの整備、香川ウッディフェスティバル、住宅設備展等への出展参加等による宣伝活動に取り組み、大学生協へのカタログ販売、樹恩割り箸の製造販売のほかミニハウス、ログハウスの製造販売などで成果をあげています。

現在、本会の活動は循環型森林整備部会に引き継がれ、池田町木造住宅推進協議会との連携の下、「阿波池田の家」の供給体制整備等を推進しています。



キ 「樹恩割り箸」が三好から全国各地へ

阪神・淡路大震災を契機とした三好地域と大学生協の交流の中で、木の文化の伝承、資源のリサイクルの観点から、大学生協の食堂で、間伐材の割り箸を使用したいという提案がありました。

平成9年10月から、山城町森林組合を中心に障害者の自立を目指す福祉法人池田博愛会箸蔵山荘を加えた製造・販売システムについて検討を重ねながら、割り箸工場を整備しました。

平成10年4月から、山城町森林組合でピースを生産し、社会福祉法人池田博愛会箸蔵山荘で選別、袋詰めを行うという方式で「樹恩割り箸」の製造に着手しました。9月には、月産30万膳を生産・出荷しました。

その後、大学生協の増産要望等に応えるため、平成13年に社会福祉法人池田博愛会が運営する知的障害者通所授産施設「セルフ箸蔵」に、割り箸製造施設を整備しました。

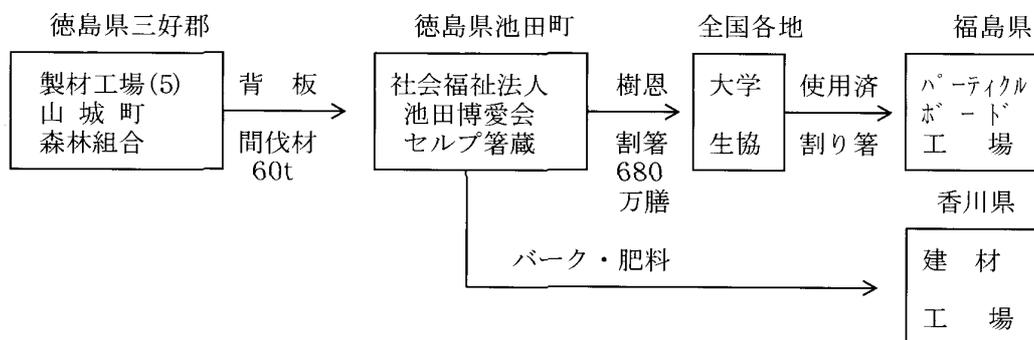
生産実績は、平成13年度450万膳、平成14年度680万膳に達しています。平成15年度は、720万膳（売上額：約1,500万円）の見込みとなっています。また、入所者への手当は、月15,000円程度で、自立支援と生きがいくりの一助となっています。

なお、JUON NETWORKは、年間1000万膳の樹恩割り箸の普及を目標にしています。

(ア) 樹恩割り箸の三つの理念

- ① 森林を守る：割箸の原材料に三好郡内の間伐材を使用し、地域森林を守る。
- ② 環境を守る：製材工場の端材の使用、割箸使用による洗剤使用量の減少、使用済み割箸のパーティクルボードへのリサイクルによって地球環境を守る。
- ③ 福祉を守る：障害者の自立支援と生きがいくりに貢献する。

(イ) 仕組み



(ウ) 割り箸工場の機械施設



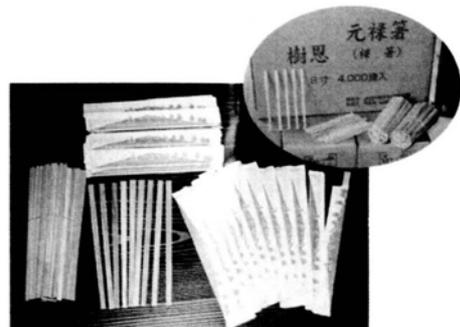
(エ) 林野庁長官賞を受賞

(財)日本木材総合情報センターが主催する第4回木材供給システム優良事例コンクールにおいて、社会福祉法人池田博愛会セルフ箸蔵の「樹恩割り箸の生産供給システム」が、林野庁長官賞を受賞しました。

表彰式は、平成16年3月11日に東京都 南青山会館で開催されました。その後引き続いて開催されたシンポジウムでは、社会福祉法人池田博愛会セルフ箸蔵の金丸吉伸施設長もパネリストとして参加し、この取り組みを発表しました。



樹恩割り箸工場(セルフ箸蔵)



樹恩割り箸



林野庁長官賞授賞式

ク 山城町集成材（3層パネルーJパネル）工場の稼働

平成10年度に、山城町が、若者定住促進等緊急プロジェクト・フェニックスタウン事業により、第三セクター「(株)山城もくもく」の活動拠点施設や高性能林業機械の整備とともに、町内から生産される素材を集積、選木、出荷する機能と付加価値の高い集成材を加工・販売する機能を併せ持った集成材工場を計画しました。

この集成材工場は、木材流通合理化特別対策事業と過疎債により、事業費10億円で、集成材工場、管理棟、製品倉庫、集成材加工機械等が整備され、平成12年6月から操業を開始し、集成材（商品名：Jパネル）の生産を始めました。

現在、壁、床、野地材用の建築資材として販売実績も上向きになっています。この大型工場が本格稼働すると、年間10,000m³の素材が消費されることになっており、地域林業の活性化に大きな影響を与えます。

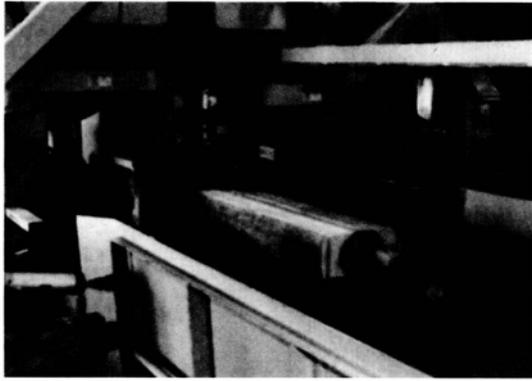
平成15年4月にはAQ認証を取得しており、今後順調な業績アップが期待できます。

集成材工場の施設整備の概要

施設名	規格等	事業費	備考
管理棟	鉄筋木造 132m ²	千円 19,005	ボイラー等を含む
倉庫棟	木造 360m ²	28,056	
工場棟	木造 2,488m ²	209,271	選木機、リングバーカー、製材 ・乾燥・巾はぎ・積層ライン
集成材加工機械	一式	717,150	
フォークリフト	3台	4,662	
(測量試験費)		15,490	
計		993,634	

集成材生産状況

年度	12	13	14	単位：m ³
取扱材積	—	2,767	2,186	



山城町集成材工場



Jパネル製品



AQ認証